

令和5年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に読書に取り組んでいるが、文字の少ない絵本を好む児童が多い。 語彙が少ないため、文章を読んで内容を正しく捉えることが難しい。 あらすじを捉えたり、登場人物の行動や気持ちを想像したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書部が発行するおすすめの本を紹介したり、読み聞かせをしたりする時間を確保する。 内容に関連する画像や事物など、補助教材を用意して説明されている内容を想像できるようにする。 登場人物の場面の様子に着目できるように、時間や場所、変化等を丁寧に整理する時間を設定する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10の合成や分解について、理解が不十分な児童がいる。 時計を読むのが苦手な児童が多い。 答えを書くとき、単位を正しく書けない児童がいる。また、「どちらがどれだけ多い」「どちらがどれだけ少ない」など問われたことに正しく答えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりの足し算、繰り下がりの引き算に入る前に、10の合成、分解の計算が反射的にできるように、朝学習の時間などに計算カードなどで反復練習をする機会を多く設定する。 短針と長針の動きと読み方を繰り返し指導して定着させる。また、日常生活においても時計を意識した生活を送らせるようにする。 文章問題は、簡単な数や日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物や生き物に触れ合ったり、育てたりする経験が十分でない児童がいる。 植物の育ちの変化や成長の様子などについて、観察の仕方や表現の仕方が分からず、不安に感じている児童がいる。 地域の施設を利用している児童が多いが、自分たちがお世話になっている方々の存在に気付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝顔の観察や虫取りなどの活動を設定し、植物や生き物に触れ合う体験をさせると共に、話し合いを通して気付きを共有できるようにする。 児童の実態に応じた問いを吟味したり、観察の際の視点を明確にしたりすることで、児童が目的意識をもち、楽しみながら活動できるようにする。 身近な場所に実際に出掛け、諸感覚を働かせながら見たり聞いたりすることなどを通して、自分と地域の方々の関わりについてとらえることができるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズムに乗って体を動かすことができない児童がいる。 鍵盤ハーモニカでは、正しい指使いで演奏することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム遊びなど、音楽に合わせて体を動かすような活動や、タンブリン、カスタネット、鈴などを使う活動を多く取り入れて、楽しみながら取り組めるようにする。 鍵盤ハーモニカは、指使いやタンギングを中心に、スモールステップで一つ一つできるようになっていく実感をもたせる。また、児童が教え合う場を設けて、満足感や達成感を感じられるようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描くことが好きな児童が多いが、苦手な児童がいる。 自分の思いやイメージをもつことが苦手な児童がいる。 絵の具やハサミ、カッターなどの道具の使い方に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いやイメージに自信をもたせるために、発想やイメージを褒めていき、作品作りの楽しさを味わわせる。 タブレット等を活用し、下書きや設計図を描く。完成が予想できるように見本を提示する。 様々な材料に触れる機会をつくる。カッターなどの道具は約束を決めて、安全に使えるようにするために、図を示しながら説明する。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 固定施設を使って、登り下りや渡り歩き、逆さ姿勢などをとったりすることができない児童がいる。 転がす、投げる、当てるなどのボール操作や、ボールを避ける動きが苦手な児童がいる。 ルールを守ったり、勝敗を受け入れたりすることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きのポイントを学級全体で共有できるように指導すると共に、ねらいを明確にした言葉がけを具体的に言うようにして、基本的な動きを身に付けられるようにする。 ルールや場を工夫して、楽しみながら運動できるようにする。また、児童が見つけた友達の良い動きを共有して、より楽しさを感じられるようにする。 ルールや注意事項を伝える際に、ホワイトボードを活用するなど、児童が視覚的にも理解しやすいように説明をする。また、勝負の結果だけでなく頑張った過程も認め、励ますようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 音読は大きな声で読める児童が多いものの、相手を意識して分かりやすく話すことが不十分である。 説明文では、文章構成（はじめ・中・おわり）を意識できている児童が少なく、文章を書く際に活用することが十分でない。 物語文では、説明文の文章に書いてある内容の読み取りに個人差が大きく、読み取ったことを基に自分の考えをもつことも不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の関連図書等を活用し、読書環境を充実させることで、音読（読書）への意欲を高め、声を出すことへの抵抗をなくす。 説明文の構造がパターン化されている事を可視化するとともに、順序を表す言葉を意識しながら活用させ、書く力を身に付けさせる。 叙述を基にした内容の理解や、自分の考えをノートにまとめる経験を積み重ね、読みの力を高める。また、考えを交流して読みを深められるよう、グループ学習も取り入れる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算ひき算の筆算の計算では、筆算の仕方を理解しているが、定着が十分でない児童が多い。 時刻と時間・長さ・大きな数では、理解力に大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> たし算ひき算の筆算を間違えないで解くことができるように、計算プリントに常時取り組ませる。 正確に九九が唱えられるようにするために、かけ算九九のカードや九九表等を用いて九九検定を行う等、継続的に取り組ませる。 学習の理解と定着を図るために、具体物や半具体物を動かしたり操作したりする経験をさせる。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 児童が問題を解決する時間（体験の時間）が十分に確保されていない。 気付きを発信する機会が少なく、なかなか気づきの質が高まっていかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入は5分とし、体験の時間を十分に確保する。また、2時間計画で授業を計画することで、体験の時間を増やしていく。 まとめ10分で、ふりかえり（気づき）を発表させ、よりよい気づきを価値づけていくことで、全体の気づきの質を高める。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲をたくさん知っており、歌うことが好きで楽しんで歌っている児童が多い中、曲をあまり知らなかったり、恥ずかしがったりして歌うことが苦手な児童もいる。 鍵盤ハーモニカに苦手意識があり、練習をする前にあきらめてしまう児童がいる。 曲のリズムを体の動きで表現しながら音楽を楽しむことを恥ずかしがったり、苦手としたりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の曲だけでなく、歌集から児童の好きな曲をリクエストして、曲を聞いたり歌ったりする時間を設け、歌うことが楽しくなるようにする。 個が練習する時間、個別指導をする時間増やすだけでなく、子供たちが1対1で教え合う場を設け、互いに頑張り合うことで達成感、満足感もてるようにしていく。 リズム楽器を使い、曲に合わせて自由にリズム打ちをする時間を設け、体を動かしながら曲にのり音楽の楽しさを味わえるようにしていく。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描くことが好きで、イメージしたことをのびのびと表現できる児童が多いが、イメージが苦手で描くことが苦手な児童もいる。 最後まで集中して作品を仕上げようとする児童がいる一方で、集中が続かず簡単に作品を仕上げたしまう児童もいる。 絵の具やハサミなどの道具の使い方に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発想やイメージを褒めていく。また、下書きや設計図を書く。完成が予想できるように見本を提示する。 制作の中で、工夫をしている児童の作品等を紹介し、児童の制作のヒントとなるようにする。 道具を安全に使えるよう、正しい使い方を図や実物投影機等を活用し、分かりやすく伝えるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> マットや跳び箱運動に苦手意識をもっている児童が多い。 学年で動く経験が乏しいため、プール等、集団で行動する時に時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に芝生を活用し「馬跳び」遊びを取り入れることで跳び箱運動に対する苦手意識を払しょくさせる。 運動会の表現活動を通じて、一歩先の行動に見通しを持たせ、集団としてメリハリをつけられるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動に関心が高い児童が多く、進んで取り組んでいるが、語句を正しく捉えられていない児童がいる。 段落相互の関係を考えながら読むことに関して、課題がある児童がいる。 登場人物の心情や場面の移り変わりを読み取ることが概ねできているが、その根拠を明確にできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な系列の本に触れる機会をつくり、必要に応じて児童に辞書を活用することを促し、習慣化を図る。 文章を読む際の目的を明確に示し、児童に目的を意識させながら、中心となる語や文にサイドラインを引かせるようにする。 文章のどこから考えたのかを問い返し、叙述に即した読み方ができるようにしていく。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 図やグラフなどの資料を読み取る力や考えをまとめる力に差がある。 学習問題に対して、児童が調べ方を選び、調べることが苦手な児童が多い。 自分の考えと相手の考えを比較することが難いため、トリオやペアで考えが深めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 図やグラフなどの資料の読み方を丁寧に指導し、それぞれの資料の特性をおさえる。 図や資料、見学など調べる方法を提示する。 自分の考えをもつために、自力解決の時間を確保する。また、思考ツールを活用し、児童同士で意見を比較できるようにしていく。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 除数と商が1位数である除法の計算の習熟に課題がある。 小数が十進構造になっていることを理解し、数の大きさを適切に表したり、比べたりすることに課題がある。 除法に関わる学習において、除法を用いられる場面を式に表現したり、式を読み取ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の宿題での習熟や時間をおいて定着度を確認する。定着度が十分でない児童には別途課題を出す。 学習したことを日常生活に生かすことが難しいので、自分の身近にある小数で記載されたものを写真撮影して共有する。また、問題文を図、具体物で表現することを通して結果を通して確かめる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習の流れに慣れていないため、学習内容が身に付かない児童が見られる。 不思議なことを見つけるような指導を続けたことで問題把握や予想はできる児童が多い。しかし、実験の方法や考察はまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を続けることで、理科の学習の仕方に慣れさせる。ノート指導を行い、問題把握・予想・実験・考察が一目で分かるような記述にさせていく。 実験の方法をペアやグループで相談させる時間を設定する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 声を出して歌うことを楽しみ、自信をもって歌うことができる。 鍵盤ハーモニカやリコーダーでの演奏では、興味をもって取り組む児童とそうではない児童の技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加できるように、ペア学習やグループ活動など、対話型の活動を取り入れていく。 音楽制作ソフトウェアやアプリなどの楽曲デジタルツールを授業に取り入れることで、児童の意欲を促進する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 作品作りに対する高い興味・関心がある。 自分の思いを作品として表現することや、集中して活動する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法や材料を使って表現することを大切にすることで、個々の児童の表現の選択肢を広げる。 個人作業だけでなく、グループでの共同制作や作品の発表の機会を設ける。協力して作品を制作することで、個人差を解消する。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ボールを操作する運動に課題がある。特に投げる運動が苦手な児童が多い。 鉄棒や雲梯などで支持する運動が苦手な児童がいる。 授業後のふりかえりの時間を十分に確保できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間で校庭遊びを推奨し、意欲的に体を動かす習慣をつける。 放課後に家や公園でできる運動を授業で取り入れる。 授業準備や片付けの時間を上手く管理し、ふりかえりの時間を確保する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書や図書的时间には集中して読書をしているが、特定のジャンルに絞って読んでいることが多い。多様なジャンルの本に幅広く触れさせたい。 説明文の内容は捉えられるが、筆者の主張と事例の関係や、文章構成の形式を捉える力には個人差がある。 物語の登場人物の気持ちを表面的に捉え表現することはできるが、叙述を基にして気持ちの変化や情景等を想像する力は個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員による読み聞かせや本の紹介を計画的に行い、児童同士がおすすめの本を紹介し合う機会を設けて、読書への関心を高められるようにする。 「比べて考える」「一番を考える」「ランキング付けをする」等、教材に合わせて児童が自発的に考え、活発に話し合いができる活動を設定する。 スケーリングで表現させる・「もしも…だったら」と想像させる・イメージ化させる等、人物の心情について、なぜそう思えるのか叙述を根拠に表現させる。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 問いに対し、何をどう解決していけばよいのか児童の見通す力、資料を活用する力に差がある。 バスを使い見学へ行ける機会が年1回のため、体験的に調べられる機会を違う方法で作っていく必要がある。 互いの考えを伝え合うことにとどまってしまう。また、友達の考えを自分の考えに付け加えることができる児童に限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の問題解決の時間を確保するために、導入部分は提示資料を絞り、解決の見通しのもてる発問をする。個人解決と交流の時間を十分に確保し、全体交流の中で、問いの練り上げを行う。 (ゲストティーチャー及び水道キャラバン) <ul style="list-style-type: none"> ごみの処理と再利用、受けつがれる祭り～武蔵府中くらやみ祭り、水はどこから、水害からくらしを守る(見学)とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～、染め物のさかんな新宿区 (体験) 染め物のさかんな新宿区 トリオや班での交流では、考えを集約したり、選択したりすることを話し合いの目的に置き、交流の意味合いをもたせる。全体交流では、グループごとの考えを比較し、考えを練り上げる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算では、仮商を立てることや、わる数とあまりの関係についての理解に課題がある。 およその数では、目的に応じて概数を用いたり概算したりすること、どの数を四捨五入すればよいか分からず、正しく処理することに課題がある。 キーワードだけで演算決定をしてしまい、どの演算を用いなければならないかを正しく判断し、立式することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械的に処理する方法を指導するのではなく、それぞれの方法の良さを具体的に理解させられる授業を行う。また、e ライブラリーなどを活用し、習熟を図る場面を毎時間5分以上確保する。 簡単な数や日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 単元に応じて、予想や実験方法などの考えを交流する時間を確保することで問題解決学習は比較的身に付いている。 考察を交流する時間が不十分のためか、単元内容が十分に身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法をグループで考えさせるなど、自分たちが考えた方法で問題解決できるような展開も行う。 ペアやグループ、全体の場で実験から分かることを話し合う時間を確保する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 技能に不安がある児童が自信を保ちにくく、派生してすべての学習に取り組むスピードや、学習を深める意欲が低い。 読譜に時間がかかり、音楽表現の工夫を考えたり試したりする時間が十分に確保できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度ごとに取り組める課題を用意したり、より細かい見通しを提示したりすることで、スムーズに活動できるようにする。 お互いの演奏を聴き合ったり、考えたりする時間を学習ごとに15分は確保できる計画をして、創意工夫を促す。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> つくりたいものに合わせて、材料を適切に選択することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料を多く用意し、使い方や組み合わせ方を選択して、試行錯誤できる環境をつくる。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 身体の使い方や、運動の中での自分の動きについて自覚できていない児童がいる。 マット運動につまずきのある児童がいる。 振り返りにその時間に自分が行った運動の工夫と結果を十分に書けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元で重要になる身体の動きや、各運動の中での動き方について、単元の初めに説明する。また、日常的に取り組める練習方法を示し、体育の時間以外での運動を促す。振り返りにどの程度取り組んだか書くようにする。 家庭で取り組めるマット運動の練習を提示し、自主的に取り組めるように促す。また、体育館での体育の際、ゆりかごやブリッジなど、課題を解決するための運動を取り入れる。 ワークシートに自分のその時間のめあてを設定させ、高学年に向けて、自分の体力の課題をつかみ主体的に学習できるように支援する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文において、場面の移り変わりに合わせて、登場人物の言動から心情を想像することが苦手と感じている児童が多い。 説明文において、話題提示や事例、筆者の主張を読み取って構成を理解することを苦手とする児童が多い。 読み取ったことから、自分の考えや感じたことを文章で表現することを苦手と感じている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の巻末の言葉の宝箱を用いながら、感情を表す言葉の語彙を増やす。また、適切に使えるよう指導する。 話題提示や事例、筆者の主張で用いられる言葉をくり返し指導し定着させ、自力でまとまりごとに分けられるようにする。 交流では、ノートを置いて、意見や感想などを付箋に残したり、Google クロームのジャムボードを活用したりすることで友達のを考えを知り、考えを広げる機会をつくり、表現へのきっかけとしていく。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間に、資料から分かること、読み取れることを書けていない児童がいること。 2つ以上の資料を関連させながら調べること。 交流を通して、多面的・多角的な視点で社会的事象をとらえること。（交流を通して、相違点を見つけることはできるようになってきた） 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間の授業で、自力解決の時間を15分確保する。 複数の資料を提示するときには、児童が資料を関連させながら調べることができるように、資料の題名を1つずつ確認したり、1つずつ資料を提示し分かることを確認したりする。 単元のまとめの時間に交流の場面を設定する。1つの社会的事象に対して、様々な立場で思考し、交流する時間を設定する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 以下の学習内容が定着まで至らずに、単元末テストが終わると忘れてしまう。 「分数の足し算と引き算」の通分や約分の仕方 「小数のわり算」の筆算の書き方 「割合」の単元で、文章問題を理解して、立式することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> e ライブラリーや復習プリントを活用し、習熟を図る場面を毎時間5分以上確保する。 e ライブラリーや復習プリントを活用し、既習事項を復習する時間を、月に1回程度設定する。 文章問題は、簡単な数や日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察に対する関心が高い児童が多く、理科の学習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。 日常生活の中で見たことがあることや体験したことがある出来事と、実験・観察している内容とを結び付けることが難しいため、考えが深まっていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題・予想・実験計画・結果・まとめをどの学習、実験でも同じように展開していき、定着させる。 児童がもつ事象への疑問から単元の学習を進めていく。 それぞれの単元の終わりに、ノートを振り返ったり練習問題に取り組んだりする時間を確保する。 児童が関心をもって予想したり実験計画を立てたりできるように、事象提示の仕方を工夫する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 変声期に差し掛かる男子、恥ずかしさが強く出てくる女子とで、表現活動に対して抵抗がある児童が多い。 複数のパートを合わせるときにつられてしまい、お互いの声を聴きながら歌ったり演奏したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちだけでなく、世界にはそれぞれの歌い方や表現方法があることを様々な観点で示し、試しながら、自分の声や表現への自信を高めさせる。 CDやタブレット端末を活用し、少人数でパート練習をしたり、音を確かめたりできる時間を計画の段階で確保する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 用具の経験が少なく、表したいものに合わせて用具を活用して表すことが難しい。 「表現」の活動では、自分の思いや考えをもって表したいことを考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材毎に実演や日文の動画視聴、試せる時間を設け、用具を知って慣れる時間を確保する。 「表現」は、プリントを活用し、活動の前に主題を考えることができる時間を確保する。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 経験の少なから、衣服の調整の仕方や裁縫、調理等、自分の目標までの過程がイメージできない児童が多い。 自分の持ち物を大切にしていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人(班)の計画を実行できるように、映像教材を活用したり、基礎を身につけさせたりすることで、具体的な過程を考え計画できるようにする。 自分の生活に即した場面の計画を具体的に立てるようすることで、物や金銭を大切に扱う気持ちを高める。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳び…様々な技を習得するのに、時間がかかることもあるため、意欲維持が難しい。 ボール運動…投・蹴・捕などの基本的な動作を苦手としている児童が多く、ゲーム自体を楽しめない児童が多い。 単元を通して、どのようになりたいという目標をもつことはできているが、そこにたどり着くための練習方法を計画することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> カードを活用したり、お互いに教えあったり、継続的に取り組んでいたりする児童に価値をおき、賞賛することで、日常化への意欲を高める。 楽しみながら技術が身に付く方法を伝え、ゲーム本来の楽しさを味わえるようにすることでボールゲームへの興味を高める。 いくつかの場を用意することで、個人の課題に合った練習ができるようにする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 話す事への抵抗がある児童が多くみられる。 単語の意味が分からず指示していることへの理解が難しい児童がいる。 授業の中でデジタル教科書の使用をしているが、自宅で使用する児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに前時の復習を兼ねて児童同士の対話活動を行う。 授業で使う単語は繰り返し意味の確認を行い、教師からの指示のも英語で行い、聞くことに慣れるようにする。 デジタル教科書を使用した課題を出すなどしながら、児童が使用できるように学習を進める。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 朝読や図書などの与えられた時間以外に自発的に読書をしようとする児童が少ない。 書かれている内容を理解することはできるが、説明文の構造や各まとまりの役割を捉えることに課題がある。 場面を限定した断片的な読み取りはできるが、場面の移り変わりによる心情の変化を追うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が様々なジャンルのおすすめの本を紹介したり、読書を宿題代わりにしたりするなど、読書に親しむ気持ちを高める工夫をしていく。 説明文の構造の型をしっかりと指導した後、各まとまりの関係性について児童同士で考えることができるようにする。 物語の初めと終わりで、登場人物の心情がどのように変化しているかおおまかに捉えさせた上で読み取る時間を確保する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見付けることはできるようになっているが、計画を立てて、まとめていくことが難しい児童が多い。 調べる方法に偏りがあり、多くの情報量から判断・選択する力が足りていない。文字などを書き写すだけの児童が多い。 自己の考えを記入できる児童が増えた一方、交流でどのようなことを意識して取り組むかわからず、課題に対しての深まりが足りていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して予想や調べる計画を立てる時間を十分にとる必要がある。また、計画の中で自己調整する時間を確保できるようにする。 歴史を身近な学習に感じることができるよう、郷土資料館や地域の方にインタビューするなど幅広い調べ方の選択肢を提示できるようにする。 交流学习では、多面的に考えることに加え、多角的な視点をもって交流できるような声かけを続ける。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 「分数のかけ算とわり算」の計算方法や約分が定着まで至らずに、単元末テストが終わると忘れてしまう。 「小数と分数の混じった計算」の単元で、分数の四則計算の方法を混同してしまう。 「小数と分数の混じった計算」の単元で、文章問題を理解して、立式することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> e ライブラリーや復習プリントを活用し、習熟を図る場面を毎時間5分以上確保する。 e ライブラリーや復習プリントを活用し、既習事項を復習する時間を、月に1回程度設定する。 文章問題は、簡単な数や日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対する予想を立てることができている児童は増えてきているが、具体的な根拠を取り上げて予想を考えることが苦手な児童が多くいる。 実験結果や観察結果をもとに、考察をすることができている児童が増えてきている。 実験や観察に意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対する予想・仮説を立てる際に、既習事項や経験を根拠にしながらかえるよう指導を行う。 予想→検証（実験・観察・調べ）→結果・考察→結論という授業の流れを確立する。また、実験結果や観察結果を考察する時間を十分に設け、ノートに自分の考えを書く、実験結果を記録する、調べたことをまとめるなどの活動を通し、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばしていくよう指導を行う。 気体検知管などの実験器具の正しい扱い方を、実験前に指導をし、正確に実験を行えるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 合唱や合奏など、複数の音が同時に鳴っているときに、惑わされず演奏したり、音を合わせたりすることが難しい。 音楽表現の語彙が少なく、自分の考えをうまく言葉にできる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で音を重ねる活動から段階的にパートを増やす際、そのステップをさらに細かくし、自然な流れで合唱や合奏に慣れられるようにする。 教科書や掲示物、プリント等を活用して視界に多くの言葉を入れて、自分のものにし、表現する機会を授業ごとに5分以上は確保する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 表現に対して苦手意識がある児童がいる。 題材の中でどのようなものをつくりたいという主題を見つけることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品づくりの前に、材料に触れて試す時間を設け、材料の性質を理解して作品のイメージを持てるようにする。 プリントなどを使用し、気になるものなどを考える時間を設け、思いをもち表すことができるようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 経験の少なさから、外気温や室温に合わせた衣服の調整がうまくできない児童がいる。 裁縫や調理などの物づくりには意欲的だが、機能面や使用する場面設定などの目的意識をもって取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材の特性や機能性を理解し、気温の変化を体感しながら衣服を調整できるように計画を立てさせる。 何のために、誰に向けての製作なのか、導入時によく考えさせてから取り組ませるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 投力や持久力が足りないことが課題となる。休み時間や放課後にも体力を高める運動やボールを使った遊びなどを取り入れるなどしていく。 運動の領域で、ゲーム領域の経験が少ない。よって、チームとしてどのような課題をもち、どのような練習を行うとチームとして、個人として成長していくのかの見通しを持つことを苦手と感じることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入段階で動画を見せるなど、自己の目指すべき姿を想像しやすいようにする。また、休み時間等には体を動かしながら上達するような意欲を持たせるようにする。 ゲーム領域の授業の回数を取り入れ、チームとして目指す力を班で共有するようにする。また、ICTを使い、ゲーム中にもどのような作戦を立てているかなどを班ですぐに共有できる手立てを行っていく。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語を話すとき、発音やアクションなどに気を付け相手意識をもって会話ができる。 教師やALTの会話だけでなく、友達が何を言っているのか興味を持ち反応することができる。 デジタル教科書を自宅でも利用する児童が増えているが、多くはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア学習や、プレゼンテーションを多く行い、練習する時間を多く設ける。 友達との会話の中で、質問をしたり、反応したりすることを意識して行うようにする。 デジタル教科書を活用して予習・復習ができるよう児童に呼びかけ、課題として活用する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。